

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No. 7

令和3年9月30日発行 校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子

徳 心豊かで思いやりのある子

体 進んでやりぬくたくましい子

『楽しく子どもと共に学びの山を登る』

～樺山先生の教育講演会から～

太田 等

今月17日。北海道に緊急事態宣言が発出されている中ではありましたが、運動会に代わる運動参観日を晴天の下、開催することができました。当日は、多くの保護者の方が来てくださいました。多くの拍手を有難うございました。



同日午後。別海町教育研究協議会・別海町生きる力アッププロジェクト主催による『令和3年度 第1回 樺山敏郎氏（大妻女子大学家政学部児童学科児童教育専攻准教授：前文部科学省国立教育政策研究所学力調査官兼教育課程調査官）に学ぶ 教育講演会』がオンラインで開催され、新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の在り方について、多くの事を学び、本校において共有しました。

特に学んだ点は、以下です。

- 教材文（教科書）の読み方は、高度情報化社会だから、これまでのように段落ごと、場面ごとにゆっくり読んでいる時代ではない。何度も全文を目で繰り返して「さっと」読み、書き込みをし、教科書が真っ黒になるくらいまで読めるようにする必要がある。
- 子どもたちが主体的に学ぶということは、どういうことかという、「子どもたちが『先生、早く読みたい、早く書きたい、先生、そんなちんたらやってる場合じゃない。早くやりたい！』というように、『先生、こういうことを解決したい』『こういうことをした方がいいんじゃない』」と子ども達が自ら発することを、1年生から2年生、3年生から4年生、そして、5年生から6年生へと学年が上がるにつれて「僕たちはこういうことを学んでいきたい」と子どもから言えるようになること。
- 学力はマジックのように、魔法をかけることはできません。先生方が楽しく児童と共に学びの山に登るしかない。先生は、子ども達に「教えた」と思うことを、子供たちが「学びたい」というように返していく。教師は(教えたことを)我慢する。「勉強しなさい」「これを考えなさい」「学びなさい」「テストに出るから勉強しなさい」ということは簡単なことです。子どもたちがこのように、「学んでいきたい！」と主体的な学びを作っていくのが教師としてのプロです。一流の教師は、めっちゃくちゃこれを使います。

以上が、学んだ点です。

小学校における教育は、子たちがこれからの長い人生を歩むにあたって、様々な目標や課題を自ら考えて判断し、多くの人たちとのつながりで自分の生き方をつくり上げていくための基礎的・基本的な知識や技能、そして、学びに向かう力を形成するものです。

そのためにも私たち教職員は、今回の講演会のような「様々な学び」を授業改善に活かし、樺山先生が言うように、子ども達が「今日は負けたけど（自分の解が間違っただけ自分の考えを発表できて）、楽しかった」と言えるような「楽しく児童と共に学びの山を登って」いきたいと思えます。

来月9日（土）には、学芸会の開催を予定しております。緊急事態宣言は解除されましたが、感染予防対策を徹底しての開催となりますので、ご理解とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。